世界的に見直される〝東洋医学と鍼〟

東洋医学 健康歳時記

四国医療専門学校教師
大麻 陽子

美術館北通り診療所院長 瀬尾憲正先生講演会

今月2日、宇多津町の四国医療専門学校において、美術館北通り診療所院長の瀬尾憲正先生による講演会が開催されました。瀬尾先生は高松市のご出身で、自治医科大を退官後、40年ぶりに地元にUターン。ふるさとに恩返しをしたいという思いから、地域のホームドクターとして昨年10月に診療所を開院しました。

診療所は再開発が進む高松市の丸亀町商店街参番街の4、5階にあります。昨年末、私も見学させて頂きましたが、とてもすてきな診療所です。4階は黒と茶を基調とし、間接照明等落ち着いた雰囲気で、レセプション横には自由に楽しめるドリンクコーナーもあります。

5階は女性をターゲットにした健診センターとなっていて、有名グラフィックデザイナーによる壁紙が印象的。北欧デザインの家具インテリアがセンスよく配置され、女性には心地よい空間です。更衣室やパウダールームも完備され、会社帰りや買い物途中にも気軽に健診に立ち寄ることが出来ます。

既存の「病院」というイメージとは全く違い、ずっと居たくなるような診療所は、丸亀町商店街にふさわしいものとなっています。機会があればぜひ出掛けてみてくださいね。

さて、講演会は「鍼灸治療とこれまでの研究成果」と題し、自治医科大における鍼診療と研究について詳細が解説されました。また、緩和ケアと鍼灸、欧米での鍼灸治療の研究成果についても、科学的根拠を基に貴重なお話を伺うことができました。

瀬尾先生は鍼治療と、これまでの研究成果として、次のように総括されました。

①脳卒中の鍼灸治療は、筋緊張や歩行障害、嚥下障害を改善する可能性がある。

②高齢者や虚弱者に対して、優しく刺激量の少ない鍼刺激は安全で有効である。

③鍼刺激は非高齢者では鎮痛効果がある。

④鍼刺激により、認知課題をつかさどる前頭葉活動が高まる。脳卒中後遺症の回復を促進させる可能性がある。

⑤認知症に対する鍼治療は今後の課題である。

鍼灸は今、世界的に注目されています。欧米では鍼灸治療を取り入れる医療施設が増えています。日本の大学病院では、自治医科大をはじめ、現在20の大学病院が鍼灸治療を行っており、今後も増加傾向にあると聞きました。

瀬尾先生は「これまで軽く見られがちだった分野だが、世界的に見直されてきた〝東洋医学と鍼〟。東洋医学は西洋医学を補完することができる。さらに東洋と西洋医学を融合する必要があると考えている」とお話しされました。近いうち、瀬尾先生の診療所でも鍼灸治療を受けられる日が来るかも知れませんね。